

PAT-NO: JP355076427A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 55076427 A

TITLE: COMPUTER

PUBN-DATE: June 9, 1980

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

ODAKAWA, KAZUAKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
CANON INC	N/A

APPL-NO: JP53150712

APPL-DATE: December 5, 1978

INT-CL (IPC): G06F003/02, G06F015/02

US-CL-CURRENT: 361/681

ABSTRACT:

PURPOSE: To hold the wrist in the steady state for operation of the computer for a long time by providing the wrist holder made of such material as feature the elasticity and the hygroscopicity to the appearance part of the computer, thus minimizing the wrist fatigue and the mistakes of registering.

CONSTITUTION: Wrist holder 2 is formed by protruding part 1A of appearance 1 of the computer. And concavity 1B is provided to holder 2 to secure steady holding of the wrist, thus preventing the fatigue of the wrist when operating the computer for a long time and in a high speed. Furthermore, the groove is provided at the side of projection part 1A of holder 2 to be fitted to the

devetail groove provided to the main body and then to be slided toward the arrow marking. Thus holder 2 can be detachable. Thus a good outer appearance can be secured for the computer even with hard driving for a long period of time.

COPYRIGHT: (C)1980,JPO&Japio

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-76427

⑩ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 06 F 3/02  
15/02

識別記号  
7010-5B  
7257-5B

⑬ 公開 昭和55年(1980)6月9日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全2頁)

④ 計算機

-2

⑦ 出願人 キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番  
2号

⑧ 特願 昭53-150712

⑨ 出願 昭53(1978)12月5日

⑩ 発明者 小田川和彬  
横浜市保土ヶ谷区天王町2-42

⑪ 代理人 弁理士 丸島儀一

明細書

1. 発明の名称

計算機

2. 特許請求の範囲

- (1) 外装部に手首受けを設けたことを特徴とする計算機。
- (2) 前記手首受けが弾力性のある材質からなる特許請求の範囲第一項記載の計算機。
- (3) 手首受けが吸湿性を有する材質からなる特許請求の範囲第一項記載の計算機。
- (4) 前記手首受けの上面が曲面を有する特許請求の範囲第一項記載の計算機。
- (5) 手首受けが交換又は必要に応じて着脱可能な特許請求の範囲第一項記載の計算機。

3. 発明の詳細な説明

本発明は計算機の手首受けに関するものである。

卓上型の計算機はその用途上長時間、使用する場合が多く、又高速で操作する必要上から使用者はほとんど計算機のキーボードや表示部を目視することなくいわゆるブラインドタッチで操作する場合が多い。その際に置数ミスと疲れとを防ぐために使用者は計算機の外装に手首の一部を当てて固定して操作するのが普通である。しかしながら従来の計算機の外装は平面で、また汗で手が滑つたり、外装が手垢で汚れたりする欠点を有する。本発明は上記の点に鑑みなされたもので以下図に従って説明する。

第1図は本発明の一実施例を示す図、第2図はその手首受け部の組立状態を示す図で、1は計算機本体、2は手首受けである。計算機本体1に設けた凹み3に埋め込むようにし、その弾力部が計算機本体の外装より出来る状態にしておけば、使

特開昭55-76427 (2)

する際に手首を安定状態に保ち、疲労と置数ミスを最小限に抑える利点を有するものであり、更に長い年月の間でも計算機外装を常に美態に保てる利点をあわせて有するものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の全体図、第2図はその一部構成図、第3図は他の実施例図、第4図は更に他の例を示す図である。

1 ..... 計算機本体

2 ..... 手首受け

出願人 キヤノン株式会社

代理人 丸島儀一

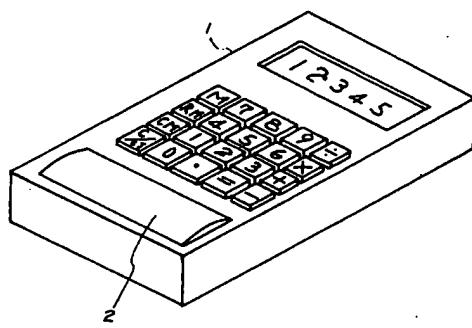
用者はこの上に手首を置き安定した状態で長時間の使用が可能で、疲労や置数ミスも少なく高能率操作が可能であり、汗、垢等で汚れた場合は手首受け2を交換することにより、計算機を常に美麗に保つことができる利点もある。第3図は他の実施例を示し、この場合は外装1の一部1Aを図示のように突起させて手首受け2を形成したものであり、特に高速長時間使用時における手首の安定と疲労防止に力点を置き、手首受け2に凹部1Bを設けることにより手首の安定を計つたものである。第4図は第3図の手首受け2を必要に応じて着脱自在にしたものである。手首受け2の突出部1Aの側部に溝を設け計算機本体側に設けたアリ溝に係合し矢印方向に滑らせるこにより着脱が可能となる。

上記の如く本発明は計算機を高速で長時間使用

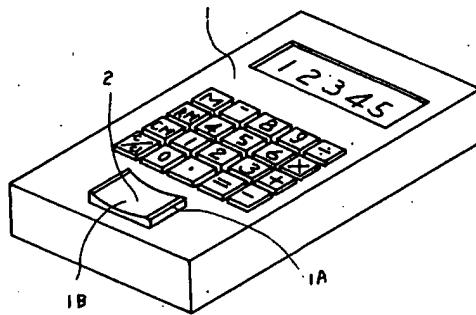
3

4

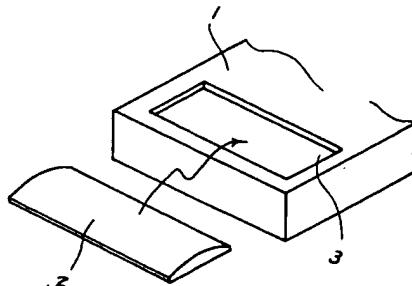
第 1 図



第 3 図



第 2 図



3

第 4 図

